

あしよろ・ハードサポート通信

短い秋が終わり、雪が舞う日も増えてきました。雪化粧をまとった足寄町の山々を見ると、本格的な冬が近づいてきていることを感じます。気温が低くなり湿気が少なくなると牛舎内では乳房炎の原因となる細菌の活動も低下しますが、この機会に搾乳手技についての見直しをしてみましょう。

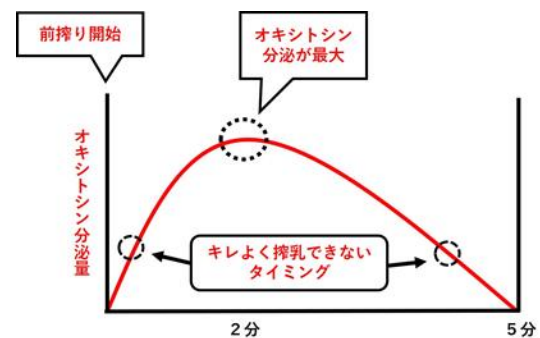
◆ゴム手袋の着用

搾乳作業を素手でやっている酪農家さんも見受けられますが、人の手は皮膚表面に乳房炎の原因菌が付着しやすいです。搾乳する際は必ずゴム手袋を着用し、衛生的な搾乳作業を心がけましょう。



◆前搾り

ミルクカーで搾乳する前に、手搾りで強く4～5回以上乳頭の前搾りを行います。この時の乳頭刺激により、催乳ホルモンであるオキシトシンの分泌が促進され、乳の降ろしが良くなります。前搾りから90～



120秒後にオキシトシンの分泌がピークになり、ここがミルクカー装着のベストタイミングとなります。また、前搾りはブツなどの異常乳を見つける唯一のチャンスであり、乳房炎を早期に発見できることに加え、乳頭に貯留した細菌数と体細胞数の高い生乳を排出する目的があります。前搾りの回数を増加させると、その増加回数に比例して乳中の体細胞数が低くなるという研究結果もあります。

◆プレディッピング

プレディッピングには乳頭の殺菌と、清拭前に乳頭の汚れを浮かせて拭き取りやすくする効果があります。乳頭に薬剤を浸漬してから30秒以上置くことで殺菌効果を高めることができます。ミルクカー装着前には乳頭を念入りに拭き取り、薬剤を皮膚から確実に除去する必要があります。

◆乳頭清拭

乳頭を清拭する際は、脱水したタオルを1頭につき1枚以上使用することが推奨されています。乳頭の汚れがひどい場合はタオルを何枚も使用して拭き取りを行いましょう。拭き取り方は乳頭側面を掌で握り、捻じりながら拭き下ろす「捻じり法」、最後に中指と人差し指で乳頭を挟み、親指の腹で乳頭口を拭く「はさみ法」で清拭を行うと、汚れが落ちやすくなります。ペーパータオルや、乾いたタオルでは乳頭の汚れを落しきるのは難しいとされています。



◆ミルクカー装着・離脱

前搾りでの乳頭刺激から90秒以上待ち、十分に乳が降りてからミルクカーを装着した方が搾乳時間は短縮され、結果として搾乳効率が良くなります。過搾乳をしないことが大切で、搾乳時間は5分以内が理想とされています。右記の写真のようにミルククロー内で生乳が1本の筋状になればミルクカー離脱のタイミングです。また、最近ではミルクカーの自動離脱の設定も、過搾乳を防ぐため早めに離脱することが推奨されています。



◆ポストディッピング

ミルクカー離脱後の乳頭口は、30分～1時間程度開いた状態になり生乳が滴っています。薬液で乳頭全体を被膜することにより、乳頭口から乳頭内部への乳房炎原因菌の侵入を防止します。また、冬季の乳頭の荒れや凍傷を予防する目的で保湿性の高い商材も販売されています。



◆できることからトライ

搾乳手技は酪農家さんごと、または搾乳担当者さんによっても異なる場合があります。乳房炎は乳牛の職業病と言われており、罹患した際は体内に炎症がおこることで、生産面や繁殖面にも悪影響を及ぼします。乳房炎を減らすために、搾乳手技で改善できることがあればこの機会にチャレンジしてみましよう。(船久保 雄二)

